

◇ 2023年度(令和 5年度)中央大学収支予算について

I. 2023 年度（令和 5 年度）予算編成方針

新型コロナウイルス感染症の影響が少しずつ収束に向かう中、国内外の社会・経済環境は感染対策を講じながら、感染拡大前の状態に戻りつつあります。本学においても、各キャンパスにおいて、対面を基本とした授業を実施し、オンラインの活用も効果的に取り入れながら修学環境の維持・改善に努めています。今後も、コロナ禍を契機に加速している社会のデジタル化の流れを積極的に取り入れ、コロナ後に対応した新たな教育・研究活動の環境整備を推進していくこととします。また、本学は 2023 年 4 月に、茗荷谷キャンパス、小石川キャンパス及び駿河台キャンパスの開校を予定しています。この開校により、本学の収容定員ベースで見た多摩キャンパスと都心キャンパス群の比率は、ほぼ均衡する水準にまで変化するため、キャンパス間の連携強化が求められます。本学では、こうした新たなキャンパスの開校を好機と捉え、デジタルトランスフォーメーション（以下、「DX」という。）を全学的に推進し、物理的な距離の壁を超えた新たなキャンパス間連携及び教育サービス・研究支援に係る実施体制を構築していく必要があります。他方で、国際紛争に伴うエネルギーを含めた資源供給不足の影響や、それに連動した世界経済のインフレ基調の中、日本国内においても昨今の為替市場での急激な円安による国内物価高が避けられない状況にあり、教育・研究活動に係る諸経費への影響も考慮しなくてはなりません。

また、中長期事業計画を推進し、中長期的に収支均衡を保っていくためには、安定した学生数の確保が必須であることから、単年度に留まらず継続した学生数の水準維持が必要となります。それと同時に、すべての新規事業計画に対して、追加的に予算を措置することには限界があり、必要となる収入を確保したうえで、各事業計画のスクラップ&ビルドを基本に据えた、限りある財源の効果的な活用も推し進めなくてはなりません。

このような状況を踏まえ、2023 年度（令和 5 年度）予算編成にあたっては、以下を基本方針とします。

【予算編成方針】

1. 中長期事業計画を着実に実施するためには、学生数の確保が財政上極めて重要な事項であると認識し、単年度毎の適切な学生数を確保する。また、補助金、寄付金、受託事業収入等の外部資金の獲得に努める。
2. 「2023 年度事業計画策定骨子」の「重点政策」に掲げる取り組みについては、多キャンパス化していく中でも、新たな収入増加が見込めない状況に鑑み、移転後の多摩キャンパスを中心として、全学的に既存活動の見直しや経常経費の増加を抑える施策を図りつつ、各事業の予算を優先して確保し推進していく。特に、DXの推進により相互連携体制の構

築効果が大きいと見込める計画については、優先的に予算を措置する。また、同骨子の「事業計画」に合致し、緊急性が高く、実施計画の内容が具体的であり、特に教育環境の向上に資する事業についても、優先的に予算を措置する。

<重点政策>

- ・DX・構造改革の具体化
 - ・多摩キャンパス将来構想の具体化
 - ・キャンパス間・キャンパス内での相互連携体制の構築
3. 国際紛争や世界経済の動向等の影響を受けた昨今の急激な物価上昇に係る経費増加については、追加の予算措置は行わず、既存予算枠の組替え等により対応する。
 4. 新規事業計画や既存計画の拡充等の申請に際しては、全ての計画に対して新たな財源を確保することには限界があることから、限られた資源を有効活用するため、既存活動のスクラップ&ビルドにより必要な財源を確保する。DX推進に係る事業についても、削減施策及びその効果が明確な計画を優先する。
 5. 都心キャンパス整備に係る大規模工事については、経常活動予算に影響が生じないよう特定資産の取り崩しにより充当する。
 6. 将来的な校舎建替等の大規模工事に備え、資金調達の負荷を平準化していくために特定資産への計画的繰り入れを行う（20億円）。

以上を 2023 年度予算編成方針とします。

II. 収支予算の概要

1. 資金収支予算

資金収支予算の概要は次のとおりです。

(単位：百万円)

資金支出の部				資金収入の部			
科 目	2023年度 予 算	前 年 度 予 算	増 減(△)	科 目	2023年度 予 算	前 年 度 予 算	増 減(△)
人件費支出	22,048	21,934	114	学生生徒等納付金収入	34,203	33,130	1,073
教職員等人件費支出	20,991	20,844	147	手数料収入	2,196	2,086	110
退職金支出	1,056	1,090	△ 34	寄付金収入	515	444	72
教育研究経費支出	14,547	14,125	422	補助金収入	3,009	2,985	24
管理経費支出	1,525	1,290	236	資産売却収入	0	0	0
借入金等利息支出	55	66	△ 11	付随事業・収益事業収入	1,154	1,102	53
借入金等返済支出	706	707	△ 1	受取利息・配当金収入	452	451	1
施設関係支出	1,138	21,442	△ 20,304	雑収入	1,580	1,246	334
設備関係支出	1,477	3,130	△ 1,653	他の会計からの繰入収入	689	1,021	△ 333
資産運用支出	4,033	3,956	78	借入金等収入	0	5,000	△ 5,000
他の会計への繰入支出	219	184	35	前受金収入	11,272	10,939	334
その他の支出	910	995	△ 85	その他の収入	2,521	20,497	△ 17,975
予備費	450	500	△ 50				
資金支出調整勘定	△ 863	△ 902	40	資金収入調整勘定	△ 11,741	△ 11,540	△ 200
当年度支出合計	46,246	67,427	△ 21,181	当年度収入合計	45,851	67,359	△ 21,508
翌年度繰越支払資金	17,843	17,903	△ 60	前年度繰越支払資金	18,238	17,971	267
計	64,089	85,330	△ 21,241	計	64,089	85,330	△ 21,241
当年度収支差額	△ 395	△ 68	△ 328				

[資金収入]

学生生徒等納付金収入については、2022年度入学生の増加、学費改定の年次進行による増収等により、前年度予算比で 10億 7,300万円の増額になっています。また、手数料収入については、2022年度の実績を踏まえた額を計上し、前年度予算比で 1億 1,000万円の増額が見込まれます。

寄付金収入については、コロナ禍が継続しているものの、経済活動との両立が進み、緩やかな景気回復が見込まれることに加え、これまでの寄付者層拡大に注力した施策によって寄付者の裾野が広がったことによる効果と事業会社からの寄付金を見込んで、前年度予算比で 7,200万円の増額になっています。

雑収入については、茗荷谷キャンパスにおけるテナントへの貸与を12か月分計上したこと等により前年度予算比で 3億 3,400万円増額、前受金収入については学生生徒等納付金収入と同様の理由により前年度予算比で 3億 3,400万円増額しています。

その他の収入については、茗荷谷及び駿河台等のキャンパス整備事業が完了したことに伴い、財源として特定資産から取り崩す金額が大幅に減少し、前年度予算比で 179億 7,500万円の減額となっています。

以上の結果、当年度収入合計は 458億 5,100万円となり、前年度予算比で 215億 800万円の減額となりました。

[資金支出]

人件費支出は、定年退職者の減による退職金支出の減額がありますが、社会保険の料率改定、茗荷谷キャンパス開校及び研究教育支援部門の嘱託職員増加等により、前年度予算比で1億1,400万円増額して計上しています。

人件費支出以外の科目については、「中長期事業計画（Chuo Vision 2025）」の実現に向け、キャンパス整備事業に11億3,100万円、スポーツ振興事業に2億3,300万円、合計13億6,400万円を計上しました。その他に、2020年度からの年次計画で実施している多摩及び後楽園キャンパストイレ改修工事（3億2,900万円）に係る経費を教育研究経費支出に計上しています。

また、前年度に引き続き、グローバル人材育成等に資する「グローバル化推進特別予算」については教育研究経費支出等に1億500万円、学長の政策的判断に基づき教育・研究活動に伴う経費を重点的かつ戦略的に配分する「学長戦略費」は予備費に5,000万円をそれぞれ計上しています。光熱水費支出については、エネルギー資源高騰や新たなキャンパスの開校により、管理経費支出を含め、前年度予算比で8億5,300万円増額、このうち多摩・後楽園キャンパスを始めとする既存キャンパスの光熱水費支出は、前年度予算比で4億9,400万円の増額となっています。

借入金等利息支出及び借入金等返済支出については、小石川キャンパス校地取得及び茗荷谷キャンパス校舎新設に係る借入金返済額及び利息支払額を計上しています。

資産運用支出については、将来の大規模施設建替更新への備えとして2014年度から毎年度20億円の特定期資産への繰入れを計画的に計上しています。

予算編成にあたり、昨今の急激な価格上昇を考慮した予算額を計上していますが、前年度に引き続き不測の事態に備え、予備費について1億円を増額し、総額4億5,000万円を計上しています。

以上の結果、当年度支出合計は462億4,600万円となり、前年度予算比で211億8,100万円の減額となりました。

この結果、当年度収支差額は3億9,500万円の支出超過となりました。また、翌年度繰越支払資金は178億4,300万円となる見込みです。

2. 事業活動収支予算

事業活動収支予算の概要は次のとおりです。

(単位：百万円)

科 目	2023年度予算額	前年度予算額	増 減 (△)
①教育活動収支差額	261	97	165
②教育活動外収支差額	443	465	△ 22
③経常収支差額(①+②)	704	562	143
④特別収支差額	322	288	33
⑤基本金組入前当年度収支差額 (③+④-予備費)	576	350	226
⑥基本金組入額合計	△ 2,405	△ 19,338	16,933
⑦当年度収支差額(⑤+⑥)	△ 1,829	△ 18,988	17,159
⑧前年度繰越収支差額	△ 52,601	△ 31,068	△ 21,533
⑨基本金取崩額	0	0	—
⑩翌年度繰越収支差額(⑦+⑧+⑨)	△ 54,430	△ 50,056	△ 4,374

[教育活動収支差額]

事業活動収入については、資金収入で説明した理由により学生生徒等納付金や手数料、雑収入が増額となっています。また、事業活動支出については、新キャンパスに係る経費に加え、近時の価格上昇に伴う光熱水費や委託費等の経費増加を見込みますが、教育活動収支差額は2億6,100万円の収入超過となる見込みです。

[教育活動外収支差額]

事業活動収入に受取利息・配当金及び他の会計からの繰入収入(中央大学附属中学校創設経費負担金返済額1億4,500万円)を計上したこと等により、教育活動外収支差額は4億4,300万円の収入超過となる見込みです。

この結果、経常収支差額は7億400万円の収入超過となる見込みです。

[特別収支差額]

事業活動収入にその他の特別収入及び他の会計からの繰入収入(各附属学校の施設関係工事費等1億4,900万円)を計上し、事業活動支出に資産処分差額を計上していますが、特別収支差額は3億2,200万円の収入超過となる見込みです。

この結果、経常収支差額と特別収支差額に予備費を減じた基本金組入前当年度収支差額は、5億7,600万円の収入超過となり、基本金組入額24億500万円を控除した当年度収支差額は18億2,900万円の支出超過になりました。

これに、前年度繰越収支差額を加算した翌年度繰越収支差額は544億3,000万円の支出超過となる見込みです。